

## 南海トラフの固着による西南日本の震源断層における応力蓄積

橋間 昭徳, 佐藤 比呂志, 石山 達也 (東京大学地震研究所),

A. M. Freed (パーデュ大学), T.W. Becker (テキサス大学オースティン校)

### ポイント

- ・ 3次元有限要素モデルによる琉球-西南日本の地殻変動データ解析
- ・ 琉球における海溝後退は、九州地域の変動に重要な役割
- ・ 九州-西南日本の震源断層における応力蓄積レートを求めた。特にクーロン応力は近年の~M7地震の発生と調和的

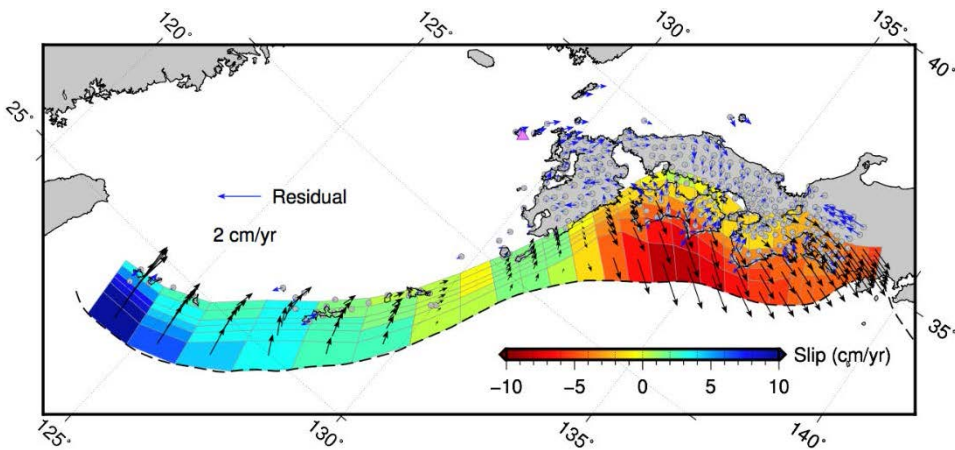


図 1 地殻変動データのインバージョンによって得られた琉球海溝-南海トラフのすべり速度余剰/欠損分布

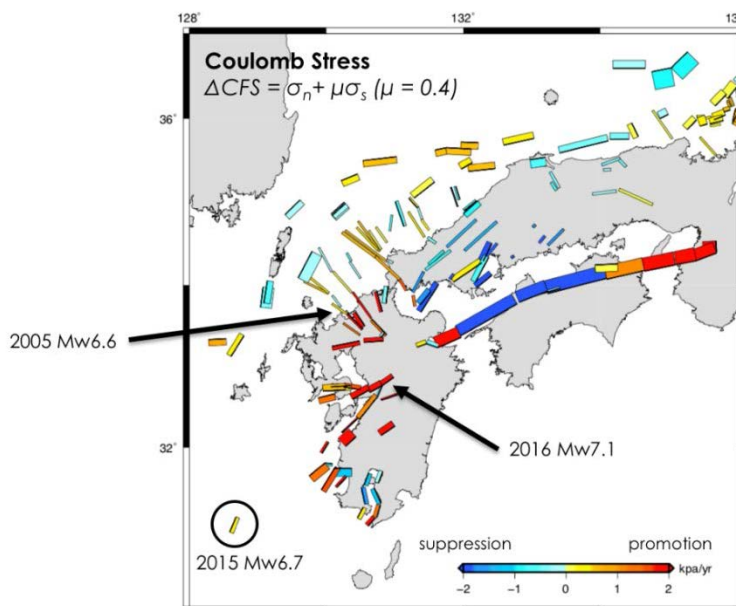


図 2 九州周辺の震源断層におけるクーロン応力. 黄色-赤色は断層運動を促進, 水色-青色は断層運動を抑制する応力がかかっていることを示している. 九州において近年M7級の地震を引き起こした震源断層の位置を示す.

東京大学地震研究所 橋間昭徳 資料